



西南学院大学

図書館報

№. 103

1985（昭和60）年5月9日発行

〒 814

福岡市早良区西新6丁目2番92号

西南学院大学図書館



読書について

— 新入生諸君へ —

図書館長 後藤 泰二

新入生の皆さん。5月の連休が終わってそろそろ大学生活も軌道に乗り始めた頃でしょうか。このあたりで少し読書について考えてみて下さい。

一昨年、九州の大学生協連合会が行った実態調査によると、西南大、九州大、長崎大、熊本大、大分大、国際経済大などの学生の一日の読書時間は、平均して、ほとんどなしが15.3%、30分未満が27.6%、60分未満が36.1%です。つまり6~7人に1人がほとんど本を読まず、また10人のうちの6~7人は読んでも1時間以内だというわけです。

ところが本の方は書店にも図書館にも山のようにあります。読もうと思えばいくらでも読めるはずですが、ですから今は、読めるのに読まない時代だともいえるべきでしょうか。

こんなことをいうのは、読みたくても読めない時代があったからです。昭和の初め頃、社会科学の本はよくあちこちに〇〇〇や×××などの伏せ字があって、当時の学生はこれを埋めながら読んだわけです。やがてそういう本は出版が禁止されました。秘密に出版された本を買って、何人も学生が警察に留置されるという事件がありました。学生というだけで特高警察が本棚を調べ、アカといわれる本はみんな持っていきました。

やがて戦争が始まり学生も戦場にたちました。そして多くの学生が戦死しました。その戦死学生たちの手記『きけ わだつみのこえ』を読むと、この人たちが、自由など全くないあの軍隊で、いかに強く本に魅かれていたかがよく分ります。

たとえば内務班で「夜は独りで『白桃』を読んだ。頁を開いた真中へ鼻をつけるようにして紙の香を嗅いだ時、涙の滲むような感激を覚えた。」

「再び『ドイツ戦死学生の手紙』を読む。何回繰返して読むも良い。ここにいって読むと殊に感銘が深い。(略)塹壕の中で蠟燭の灯の下で、バイブルを読みゲーテを読み、ヘルダーレーンの詩を誦しワグナーに想いを寄せる彼らは幸福である。」

また海兵団で「空白な時間には書物へのノスタルジーが沸々とたぎって来た。(略)文字の方は手当たり次第、眼につき次第むさぼった。(略)新聞はいかなる古新聞でも、例えば私物の泥靴を包んでおいたぼろぼろの新聞まで読み尽してしまった。(略)食事時間の数分前、(略)食卓の固い木の長椅子に坐って、メンソレータムの効能書を裏表丁寧に読み返した時などは、文字に飢えるとは、これほどまでに切実なことかとしみじみ感じた。」

まさに読みたくても読めない時代だったのです。その戦争が終わってもう40年たちました。平和で自由で豊かです。いや豊かすぎます。だから本当は今、読めるのに読まない時代なのではなく、読めるけど読まなくてもすむ時代だといえるべきなのかもしれません。しかし新入生の皆さん、本は読まないでいるとやがて読めなくなります。個人的にも社会的にも読めなくなることはないように、これからの4年間、どうかみっちり本を読んで下さい。

商学部教授（企業形態論）

図書館利用案内

教員から新入生へ

文学部助教授 井口 正俊

高校三年の秋だったと思う。落ちこぼれだった僕もそれなりに何か考えたかったのだろう、あまり行かなかった図書館に入ってみた。外はあんなに騒がしいのにここはなんて静かなんだろうと思った。窓に赤く夕日が映り、その外に青桐の木の大きな葉が黄ばんでいたのが強く印象に残っている。思想書の並んでいる書架の前でなんとなく自分がこれからやって行こうとすることを考えていたような気がする。図書館は僕には本を読むというよりは考えるきっかけの場所としてあったとっていいかも知れない。

それから10数年後、スイスのシュタイン・アム・ラインという美しい小さな町にあるベネディクト派の聖ゲオルゲ修道院を訪れた時、その図書館に当てられていたという部屋でその思い出が甦って来た。そこでも僕はこれからどうなるだろうと考えていたと思う。それはまた、羊皮紙の写本の並ぶ棚の前で、窓の真下を渦巻いて流れるラインの急流を眺めながら修道僧達は何を考えていたのだろうという思いに連なって行った。

図書館は知の歴史的集蔵体^{アルヒーフ}であると同時に、現にそこに居る人間の思索の場でもあるのではなからうか。そしてそれはもしかしたら、そこに収められたすべてのアルヒーフを越えて行く思索でなければいけないのかも知れない。そこが図書館というものの原点であるような気がしてならない。

(いぐち まさとし：哲学)

商学部助教授 濱田 和樹

図書館を利用する機会は、本の借り出しはもちろんのこと、課題や講義でよくわからなかった箇所を詳しく調べるため等いろいろあるであろうが、特に、私は図書館での読書をお奨めする。

図書館での読書は、自宅、アパートと環境が違い、別の意味で能率が上がることは確かである。経験からいえば、下宿生は下宿と違い、回りの騒音に悩まされることはないし、娯楽への誘いもなく、自分の勉強時間が持てるであろう。また、読んでいる本のわからない箇所があれば、すぐ関連した本で補うことができ、一つ一つの問題点を解決しつつ順を追って読めるという利点がある。

大学時代を振り返ってみて、私も初めのうち、図書館とは本を借りる所であり、読む場所とは考えていなかった。なぜ、人がたくさんいるのに本が読めるのだろうかと思議にさえ思っていた。今思えば貴重な時間を失ったと思っている。

新入生諸君は、わからない箇所があれば、できるだけ暇を早くみつめて、講義、その他の問題と関連した本を読み、解決することが望ましい。興味ある問題についての本を読むことも、大いに結構なことである。図書館に行くことが日々の習慣とはならないまでも、それに近いものになることを望む。長い間、図書館に行かないでいると、だんだん行くのがおっくうになり、利用すべき時にも面倒になる。図書館はそんなものではないかと思っている。(はまだ かずき：分析会計論)

新入生の皆さん、図書館へはもう行かれましたか。すでに何冊か本を借りた人もいらっしゃると思いますが、簡単に利用法を述べます。

まず、1階ロッカーに荷物を入れ、2階の受付で学生証を預けます。学生証を忘れても、仮りの証明を発行してもらえますが、忘れないように気をつけて下さい。1階のロッカーが全部塞がっている時は、受付で2階のロッカーの鍵をもらい使います。図書目録は3階にあるので、アルファベット順で引けば、簡単に本が捜せるでしょう。さて、目的の本を見つけても“CLOSED”と印が押してあることがあります。この場合、本の番号と題名を2階カウンターで閉架利用票に記入して提出しなくてはなりません。もし、わからないことがあれば、カウンターで尋ねて下さい。親切に教えてもらえます。

最後に、「図書館＝勉強」と堅苦しく考えずに、

自分の興味あるものを捜しに行くことをお勧めします。映画・美術・料理・外国の雑誌など広い分野の本が揃っています。CLOSEDには原書複製版もあります。私は、竹久夢二や室生犀星などの本を借りましたが、見ごたえがありました。

さあ、皆さんも、図書館へ何度も足を運んで、利用方法に慣れて下さい。

文学部(外・英)4年

原田 彰子

図書館利用案内

現在、年に何万という書物が世に出ている中で、ベストセラーズといわれるものはその一握りに過ぎず、その内容の程度の如何を別にして多くの読者を引きつけているにはそれなりの理由があるはずです。今日、古典・名著といわれるものがある意味でこのベストセラーズであることを思えば、特にこの種の本を軽視する必要もないでしょう。

このコーナーには逐次新刊図書が追加されておりそのジャンルも偏らず、多岐にわたっているうえ、万が一、希望図書がないときも購入希望ができるよう便宜がはかられている。

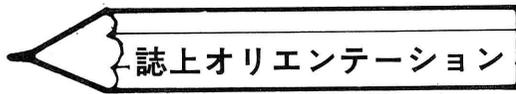
最後に一言。大学四年間を単なる“モラトリアム”として過ごすのではなく、自己を磨き、志を確立するために読書をその一指針として欲しいと願って止まない。

法学部3年

黒瀬 浩児

先輩から新入生へ

● 本学の図書館には特筆すべき事柄が数多くありますが、その中でも特に注目に値するのが本学図書館二階に設けられたベストセラーズのコーナーでしょう。とかく図書館といわれるものは、その権威性の故に我々のニーズとかけ離れた専門書の類でその身を固めがちです。本来の図書館のあるべき姿が学問の機会均等、つまり誰でも気楽に利用でき読む気を起こさせることにあるとするならば、本学図書館のこの企画は、「ベストセラーズの本を多く読みたいが、わざわざ買うのも」という我々学生の気持ちに合致しているといえます。



③



図書館の専門用語 その(2)

受入業務の用語

荒川 勇

受入業務の用語と言っても特に説明を要する用語はないが、日常使っている言葉を少し紹介してみる。

(1) 購入受入

図書資料を図書館を通して書店から有償で買入れる最も普通の図書取得形態である。書店に比べるとわずかであるが、団体・学会などで、書店を經由して購入できない図書については直接そこから購入する。また、外国の出版社に直接注文して図書を購入する方法もある。この方法だと、図書を迅速かつ安価に手に入れることができるが手続きミスが発生した場合は、受入れが遅れることがある。

(2) 寄贈受入

著者、篤志家、団体等から無償で贈られたもの。また、図書館の依頼によって贈られたものをいう。但し、自発的に贈られた図書を無条件に受入れないで、取捨選択して受入れる必要性もある。

(3) 編入受入

新聞・雑誌などの類で、当初消耗品扱いにしていたものを長期保存のため、一般図書と同じように備品扱いにして受入れられるもの。

(4) 発見図書受入

紛失・盗難その他の事故で、すでに払出済みの図書が後日発見された場合の受入れをいう。「払出」とは、すでに受入れた登録済の図書を所在不明、回収不能、破損、不用等の理由で、登録から抹消(除籍)することである。

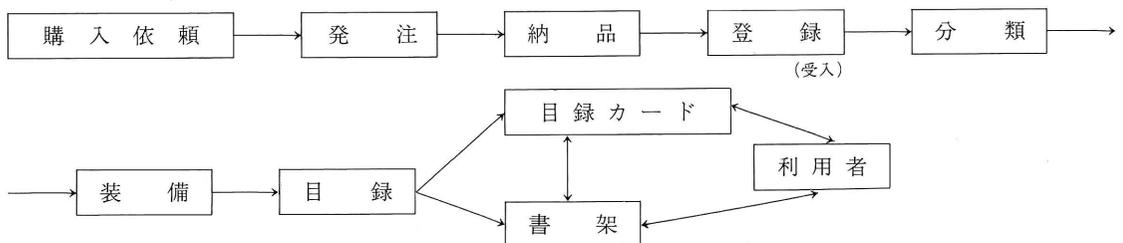
(5) 見計い図書受入

見計い図書とは、書店が現物見本を図書館に持ち込む図書のことで、実物を見たうえで買うという注文の一形式である。見計い図書は、要不要の決定を早くでき、返品もしやすい。

最後に、図書が受入れられてから、利用されるまでの流れを略図してみる。

利用者は、目録カードで検索し、図書を捜すか書架に直接行って図書を捜すことができる。

(あらかわ いさむ：整理課・係長)



これからの大学図書館

—文献情報システムが稼動—

今永義純

● 昨年の12月21日、東大文献情報センター（以下「文献センター」と略記）は、記者会見を行い、「データ・ベースの検索、作成のためのオンラインネットワークが完成、とりあえず、12月から東工大付属図書館と接続し、試験的なサービスを開始した。」（1984. 12. 22 毎日新聞）と発表した。

● 学術情報システムの中心的役割を果たす、学術情報センターの機能である、①情報検索サービス、②目録・所在情報サービスの提供のうち、後者の機能を果たすのが文献センターである。文部省は、現在学術情報システムの完成を積極的に推進している。今後10年間位をかけて、全国の国・公・私立大学図書館の大半がこのシステムに加入するよう呼びかけている。

● この目録・所在情報サービスは、分担目録作成を義務づけたものであり、加担する図書館個々は、一定量の目録作成の分担責任を負うことになる。この中のシステムは、次の四つのサブシステムに分れている。①図書目録、②雑誌目録、③相互貸借（ILL）、④情報検索システムである。図書・雑誌の目録・所在情報サービスを通して、複写、現物の貸借（ILL）が可能となり、情報検索サービスも受けられるようになる。

何年か先に、このシステムに本学図書館が加担して、そのサービスを受けられるようになったと

仮定した場合、どのようなシーンが見られるかを想定してみよう。

【場面(1)】

ある学生が、ヘミングウェイの人物論について卒論を書くために、『ヘミングウェイ研究』（石一郎(著)、南雲堂、昭37)という図書を探している。本学図書館には所蔵していなかった。それで図書館員に相談したところ、館員は、端末機を通してこのサービスを利用し、A大学に所蔵していることがわかった。そこでその場で端末機を通してA大学に図書の貸出しを申し込んだ。すると1週間後にその図書が到着した。

【場面(2)】

自分は今、レポート提出に際し、日米の貿易摩擦について資料を集めている。どのような資料があるかを、端末機を通して情報を集めてみた。かなりの図書、雑誌論文が見つかった。その中から必要なものをピックアップして、本学図書館に有るものを集めてみた。これでレポートには十分だった。

おそらく今後何10年か先は、各大学図書館ではこのようなシーンが見られるだろう。しかし技術的な面ばかりが進歩して、読む本が皆同じというのも、何か気味が悪いような気もする。

(いまなが よしずみ：情報サービス課・課長)

新入生の ための 読書案内

文学部
英文学科主任

八木 幹



文学部外国語学科
英語専攻課程主任

村上隆太

一冊の本ではないが『月刊 言語』(大修館)は面白い。少々程度は高いが、何といてもテーマの多様なこと、着眼点の良さは抜群である。しかも、最新の情報から基本的な問題のおさらいまで毎号特集を組んで取り扱っていて読書欲をそそる。例えば……

英語学、言語学を勉強しようと考えている人たちには「言語学とは何か—18章」(78年4月号)、「言語学7つの発見」(83年6月号)、「英語の語源」(84年7月号)、「言語学最前線—GB理論のすべて」(84年11月号)など、これを知っているといたのでは英語学の素養がまるで違う。

コミュニケーション関係でも「動物のコミュニケーション」(79年9月号)、「異文化間コミュニケーション」(82年8月号)など大いに参考になる。

堅いテーマばかりではない。「辞書への招待」(85年4月号)では、英語の辞書から漫画の辞書までの案内があるし、「昭和語小辞典」(85年1月号)では写真入りで「ピカドン」から「かい人21面相」まで面白い解説がある。

「なぞなぞ大研究」(84年10月号)から「論文・レポートの書き方」(81年7月号)まで、まさになんでもある。しかも、すべて高度の学問的見地から書かれているので、知識欲旺盛な新入生諸君にはもってこいの雑誌である。わからない事柄はさらに別の入門書で勉強してほしい。図書館には沢山あるはずだ。

学部4年間は長いようで、意外に短い。卒業論文が選択必修になってから英文科の様相もかなり変わってきたように思う。これも一つの傾向であり、代替科目による履修も積極的な意義をもつ。唯、「論文」の心意気を断念した結果、在学中に、本当に読みふける作家、作品、原典で接する対象から遠ざかる破目に至れば、青春の大いなる損失となろう。時々の課題の必要にせまられ、限られた期間で作成し、提出するレポートが、単に要領よく解説文や翻訳書に依存した当座の報告の形式に終始する限り、図書館の利用も2次情報のほかない集合離散をくりかえすだけである。

外国文学を専攻するという事は、作品との出会いに始まる。幸に新入生は、イギリス文学概説、アメリカ文学概説を教場で学ぶ機会をもつ。それぞれの担当者による熱っぽい肉声を直接耳にするとき、若い感受性は確かな展望と輪かくに触れて快い知的興奮を喚起される筈である。その刺戟をもって、少なくとも週に一度は、図書館の開架閲覧室の英米文学の一角をのぞいて欲しい。読書体験は帰する所、一冊の本の出会いである。もう一度'read'の意味を確かめる事である。一つの分野を専攻する、研究するという意味合いを。自らの読みによって、wisdom, knowledge, informationのそれぞれの響き、相違を経験してもらいたい。

文学部外国語学科
フランス語専攻課程主任 **中村 栄子**

昔から学問とは本を読むことでした。視聴覚メディアが幅を利かせている現在でもその原則は変わりません。本を読んで自分でものを考え、それを文章に表現する、という習慣のない人は、学校の成績はよくても就職試験などですぐ馬脚をあらわします。思考力は読書によって磨かれる、といっても過言ではありません。難しい本を何度も繰り返し読んでいるうちに、その本の与える情報とは別に、思考の習慣というものが身につけて行くのです。

何を読むべきか。もともと本を読む気のない人に案内は要らないし、読書とは自分でよい本を探し求めることです。他人のおせっかいは不愉快なはず。先生に推奨された本を数冊読むだけでは読書とは言えません。まず自分で多読濫読することが肝腎です。そして、これは、という本にめぐり会ったら2回、3回と繰り返し読むこと。自分で多くの本を買い込むのはたいへんですから、図書館を利用することです。読みたい本がそこになければどしどしリクエストして下さい。辛抱強く読書の輪を広げているうちに、これは、という本に出会います。その感動と喜びは何とも言いようのないものです。できればその本を自分で買って、読了した日付と感想など記入しておきますと、精神生活のアルバムになります。大学とは精神と知性を鍛える場であることをお忘れなく。

文学部
児童教育学科主任

藤野 力

入学して一カ月が過ぎ、キャンパスライフにもだいぶ慣れてきていることと思います。慣れてきた余裕から、教科書以外の書籍にも読書の時間がとれるようになってはいます。高校時代には受験勉強に追われ教科書・参考書だけにしか目をふれていなかった人たちも、小さな時からいつも読書を習慣にしていた人たちも、これからは大学生としての読書の習慣を身につけるように希望します。

未知なることを知ろうとする欲求は人間として誰もがもっている欲求です。その欲求を実現しようとする場として大学はあるし、また、そのよう

な場としてみなさん方は入学してきたと思います。世の中の現象・出来事を理論として見ていく態度ないしは理論化していく態度をもつことを、これから学んでいくいろいろな学問によって知らされていくことと思います。

情報として早く知っておかなければならない情報もありますが、少くとも自分の学ぼうとする専門の古典（単に古い文献という意味では勿論ありません）がダイジェスト的にしか知らないという状態は恥ずかしいという気持ちをもって欲しいと思います。

自ら、ある事を習慣にしてしまうことは意外と困難なことです。読書については学生としての自覚から得られると思います。



(冷暖房完備で、夜9時まで開館)

文学部
国際文化学科主任

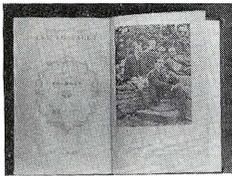
森 泰 男

大学とは何でしょうか。大学とは文字通り大人の学校です。大人には自由と責任があります。周知のように、大学生は英語ではスチューデント(student)です。この英語のものはラテン語で、「熱心に求める人」「励む者」という意味です。したがって、熱心に学ばない者は学生とはいえないのです。日本の大学には、怠惰な子どもが多すぎるのではないのでしょうか。

高校までは、与えられた知識をひたすら覚え込んだことでしょう。生活面でも規制は厳しかったことでしょう。しかし、大学は自由です。大学は本人の自覚と自発的努力を期待しているからです。ホイジンハを持ち出すまでもなく、自由な時間は何ものにも代えがたく貴重なものです。英語のスクールはギリシア語のスコレー(ひま)から来ています。自由な時間がなければ、考えることはできません。ひまがあるから、本を読むことができるのです。自由な時間は熱心に求める人のためにとっておかれているのです。

ものを考えるためには、必ずしも本を読む必要はないように思えますが、先人の手ほどきがあって初めて正しく考えることができるのです。本を読まない人は人類の知的遺産の価値を認めないのかつ者ではないでしょうか。

国際文化学科では『読書案内』を出していますので、それを参考にして自分の読書計画をたててください。そして読みつつ考え、考えつつ読んでください。きっと充実した学生生活を送ることができるでしょう。諸君の健闘を祈ります。



商学部
商学科主任

小川 雄 平

A君、入学おめでとう。少しは大学生活にも慣れた頃でしょうか。受験参考書から解放されたので、ゆっくり読書してみたいとの便り、嬉しく拝見しました。

さて、小生の新入生時の体験を踏まえて読書案内をしてほしいとのことですから、どの程度参考になるかわかりませんが、簡単に記しておきましょう。

今でもよく覚えています。小生が大学に入って最初に読んだ本は、マルタン・デュ・ガールの『チボー家の人々』でした。この本は、高校入学が決まった春休みに初めて読んで痛く感動したこともあり、再読したという次第です。まだ読んでいないのだったら、是非一読を勧めたい本です。

そうそう、岩波新書を毎週1冊読破しようなんて計画をたてたのも大学入学時でした。しかしこの計画は早々に挫折し、結局1カ月に1冊のペースになってしまいました……。君にも是非挑戦してほしいと思います。

その当時読んだ岩波新書の中では、高島善哉の『社会科学入門』とE. H. カーの『歴史とは何か』が印象的でした。入学のお祝いに進呈しましょう。とくに前者は、これから社会科学を学ぼうとする君には、絶好の入門書となるでしょう。

それではA君、元気で！また便りをします。

商学部
経営学科主任

野 藤 忠

企業経営をめぐるさまざまな問題を究明する本のなかには、魅力にあふれたものが多い。それは、人間や社会を原点に、企業の生命に迫らんとしているからである。しかし、最初から企業経営に関する専門書には興味をおぼえないかもしれないから、日常生活の身のまわりのことから得られる情報を手がかりにしだいに関心をもつようにしてほしい。大学を卒業すれば、ほとんどの人は企業に就職するのであるから、企業について学べる機会を最大限に生かそう。

主要な資源のほとんどを欠き、しかも厳しい国際環境のなかを加工貿易で国を立てていかななくてはならないわが国では、企業の盛衰が国民生活のあり方に強い影響を及ぼす。すべては、諸君の双肩にかかっている。そのために、目下は、心の糧となり、最高の知識を満載した本を求めて、読書に努めよう。

しかし、残念にも、大学生諸君が本を読まなくなったとしばしば聞く。それだけ良書に出会うことがむずかしくなったわけである。そのときには読まなくても、良書を購入して積んでおけば、いつの日にか読むことがあるかもしれない。図書館には良書が満ちている。その良書は、ひもとかれることを静かに待っている。頼もしいことに、本学の諸君は、多年、読書熱心である。

経済学部
経済学科主任

江 副 憲 昭

大学生になれることはすばらしい特権と思う。なかでも、読書という特権は最も重要なものである。さて、学生時代の読書という場合、二つの領域に分けて考えた方がよいだろう。それは人生全体の理解を深めるための読書と専門的な知識を学ぶための読書である。まず前者は、できるかぎり多くの本を乱読でもよいからどンドン読むのがよい。諸君の夢と感受性は読書によって啓発され、

いつの間にか力強く若々しい自己を発見できるようになるであろう。私の貧しい体験で言うと、東西の文学がそのために役立つように思う。ドストイェフスキー、トルストイ、スタンダール、キルケゴール等は当時の学生が愛読するものであった。どの本を選ぶかは多くの本を読んで読者自身が判断すべきである。時代とともに読書傾向も変化するからである。

次に、専門的知識のための読書は諸君の目指す専攻に応じて異ってくるであろう。ここでは経済学の場合について私見を述べる。経済学は社会科学の一分野であるから、そのベースとして哲学、歴史、社会等の幅広い知識が必要である。さらに外国語の熟達、数理的論理の修得なども必須であろう。注意すべきことは、専門のための読書は、一般的な読書と異なり乱読や浮気読みは有効でないことである。精読こそが唯一の読み方である。

法学部
法律学科主任

沢野直紀

最近、本を読む層の中心であった若者とくに大学生が本を読まなくなつたと言われている。活字よりも、映像、音楽、漫画、イラストに親近感を持つ現代若者の感性は、硬い本すらファッション化してしまうようである。

しかし、われわれ大学教員も、研究者として各分野の専門書を読むことに追われ、真の読書生活を送っているわけではないので、あまり大きなことは言えない。しかし、本を読む楽しさは充分に知っている。新入生諸君も、時間に恵まれた学生時代に、ぜひ読書の習慣を身につけ、その喜びを知って欲しいと思う。功利的に考えても、本を読む楽しさを知っている人は、知らない人より楽しみが多いわけで、それだけ人生が豊かになる。人生が飛躍的に長くなり、これから長くなる時代において、一生の趣味としての読書の効用は大きいと思う。若い諸君にはまだ早すぎるかもしれないが、考えておいてよいことである。

ただし、音楽でもスポーツでも趣味の域に達するまでには、相当の練習と努力が要求される。本を読むことも同じであって、本を読むことを習慣

化し、その楽しさを知るためには、ある程度の意志の力が必要であろう。

法律学科主任として、法学部学生のための読書案内をすべきであろうが、それは、「法方案内」等の出版物や法学等を担当する先生方に譲りたい。



教養部学科主任

平野正

長く苦しい受験勉強からようやく解放されて、自分の思いのままの時間を手に入れた新入生諸君は、読書においても自らの課題と興味に応じた書物を見出ししていることと思う。また専門の分野における書物については、それぞれの専門に応じて紹介もされ、推せんも受けていることと思う。そこで、ここでは“どう生きるか”に関する書物について推せんすることにする。それは40数年前、諸君と同年輩の青年学徒が死に直面して、どのように生き、どのように死をむかえたかの記録、『きけ わだつみのこえ——日本戦歿学生の手記』(岩波文庫)である。同書は1982年夏、岩波文庫に収録されて発行されることになった際、発行日以前に予約で売り切れてしまったという日くつきの書物であり、1949年に初版が発行されてから、発行部数百数十万部に達するという。この書には、死を前にしての若き学徒の生きることに對する真剣な態度があり、死への恐れや、残される者への深い思い、生への執着や苦悩が、率直に語られている。しかも死に直面し、死の直前になつてもなお自らの知的欲求を満すべく専門書をむさばり読み、思索を重ねて、自らの向上と錬磨に尽す姿がなまましくえがき出されている。この死に直面した若者たちの知的欲求への真摯な態度と現在を生きることへの真剣な姿とは、人間の偉大さ、崇高さをわれわれに教えてくれる。現代の若者にぜひ一読をすすめた書物である。

☆ ニュース・お知らせ ☆

〈図書館委員会〉

- 60.4.19 ①昭和59年度図書館決算について
- ②昭和60年度共通研究図書費、一般図書費および新聞雑誌費の配分について

〈研修・出張〉

- JAPAN/MARC 共同利用実験説明会
(主催：三菱総合研究所)
60.4.16 於：九州経済調査協会
杉野、大羽司書出席
- 福岡オンライン研修会 (主催：丸善)
60.4.24 於：福岡天神センタービル
杉野司書、川上司書補出席
- 昭和60年度第1回私立大学図書館協会
西地区部会九州地区協議会
(当番校：南九州大学)
60.4.23 於：宮崎市(ひまわり荘)
後藤館長、刀根事務次長、今永課長出席
- 昭和60年度(第36回)九州地区大学図書館
協議会 (当番校：宮崎医科大学)
60.4.24 於：宮崎市(ひまわり荘)
後藤館長、刀根事務次長、今永課長出席

〈駐日EC委員会よりEC資料センターの实地調査のため来館〉

本学は、EC(欧州共同体)より、EC資料センターとして認可され、大学図書館内に併置しております。EC発行の各種の資料(英語版)が届けられ、これらは本学の研究者ばかりでなく、広く学外の研究者にも無料公開されております。それに伴い、その資料の整理状況、利用状況等を調査するため、去る4月2日に、駐日EC委員会代表部広報部より、ドゥプレル資料室長他1名が訪れた。

本学EC資料の整理、利用状況等をつぶさに見聞された。特に利用面において、近郊の大学の研究者を中心にEC研究会を発足させて、積極的に

活動されていることについて、高く評価されていた。

〈人事〉

任用 司書補 齊藤裕美(整理課・受入係)

告知板

昭和60年度 図書館行事予定表

- 60年
- 2月4日(月)～4月10日(水) 春季休暇
休暇中学習室閉室
2月12、13、14、15日は入学試験のため休館
 - 4月6日(土) 新入学生利用指導(文・法)
8日(月) " " (商・経)
 - 5月11日(土) 学院創立記念日で休館
 - 7月1日(月) 夏休長期貸出開始(9月18日まで)
11日(水)～9月4日(水) 夏季休暇
休暇中学習室閉室
 - 9月9日(月)～9月27日(金) 前期試験
28日(土)・30日(月) 大学休業のため休館
 - 11月中旬 大学祭期間中学習室閉室
 - 12月16日(月) 冬休長期貸出開始(1月18日まで)
25日(水)～1月7日(火) 冬季休暇
休暇中学習室閉室
26日(水) 開館 9:00～21:00
27日(木) 開館 9:00～12:00
28日(金)～1月4日(土) 年末年始の休館
- 61年
- 1月6日(月)より開館
20日(月)～2月6日(水) 後期試験
28日(火) 春休長期貸出開始
(卒業予定者は2月末日まで)
(上記以外者は4月22日まで)
 - 2月7日(金)より春季休暇
休暇中学習室閉室
中旬 入学試験のため休館
 - 3月上旬 在庫調査で開架閲覧室閉室

休館・閉館その他行事予定については、そのつど、図書館の玄関に掲示します。